関西電力グループ
power with heart



# Kanden Investor Day
# 海外エネルギー事業

2026年10月5日

# 本日のご説明



**1．海外エネルギー事業の目指す姿** ・・・・ P. 2

- 資本効率を重視した規律ある成長投資
- 財務計画

**2．事業概要** ・・・・ P. 6

- 当社海外エネルギー事業の歩み
- プロジェクト一覧
- コンセプト
- 事業ポートフォリオ

**3．経営計画の達成に向けて** ・・・・ P. 11

- 事業戦略
- 具体施策

# 資本効率を重視した規律ある成長投資

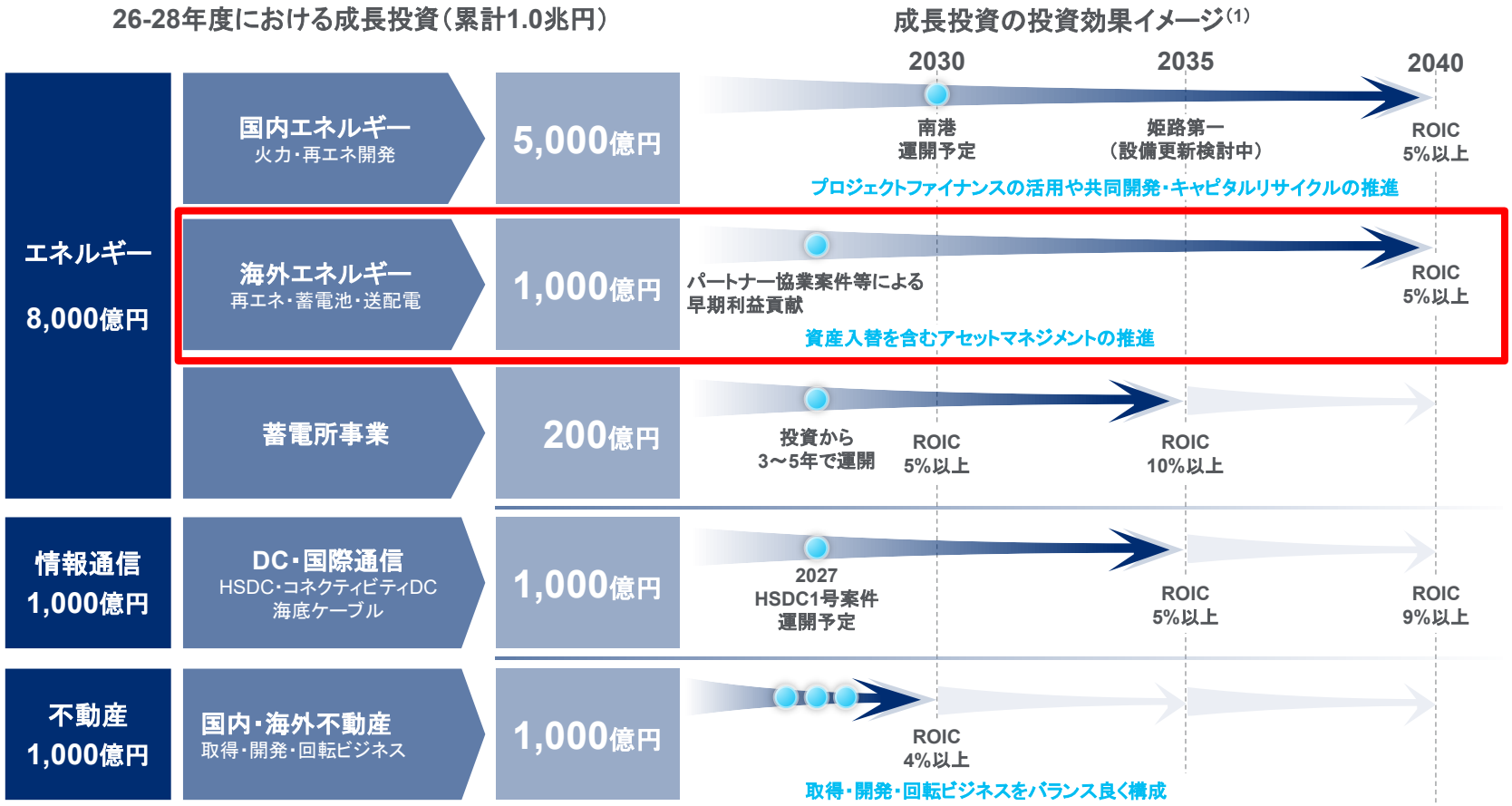


○ 海外エネルギー分野に、**26-28年度で1,000億円を成長投資**

## 資本効率を重視した規律ある成長投資

経営の深化と変革

- 収益性や事業リスク、事業期間等を考慮した厳格な投資規律のもと、最適なファイナンス手法を選択し、共同開発・キャピタルリサイクル等も活用することで、利益貢献の早期化と資本効率の向上を実現する

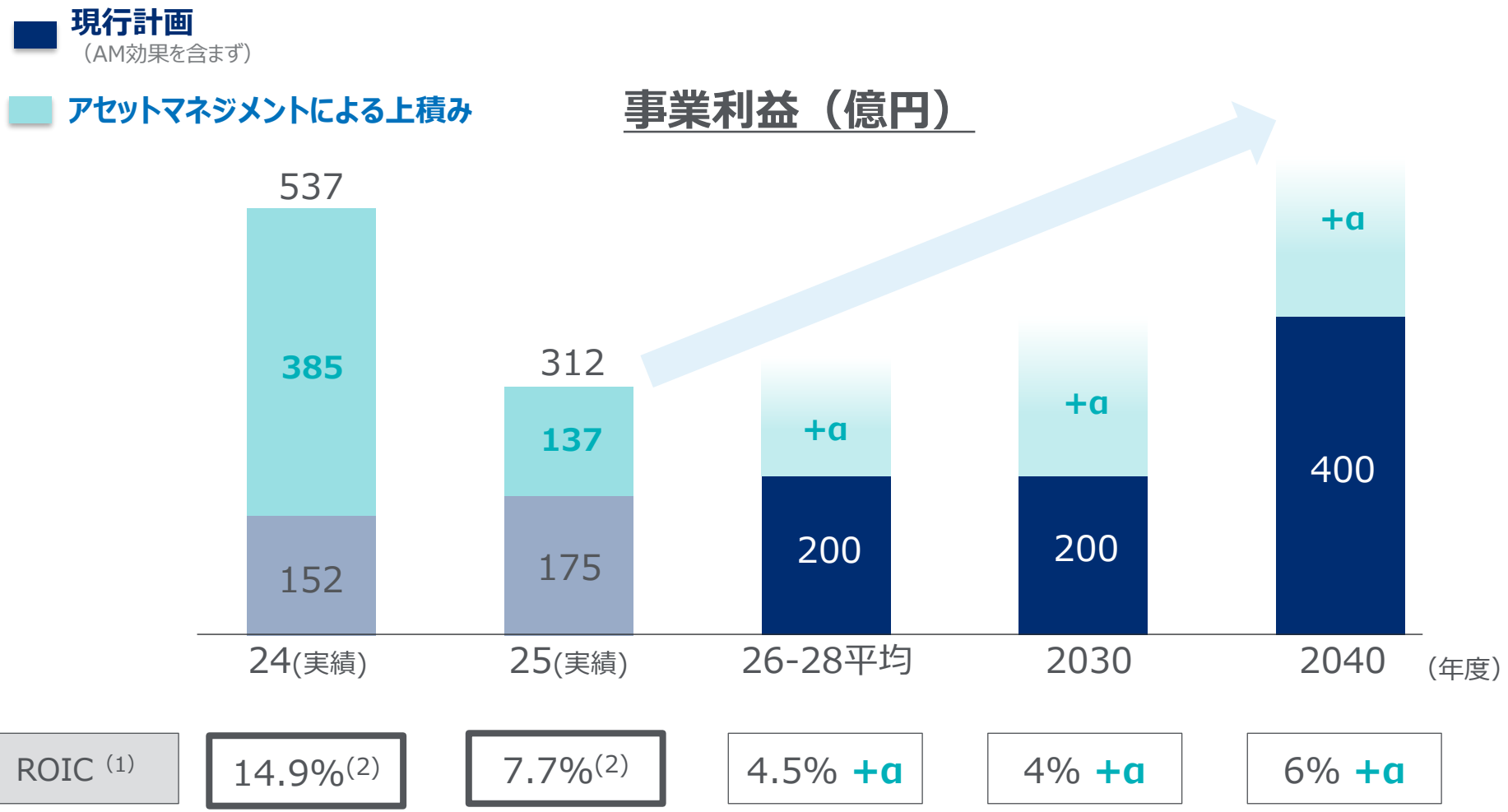



注記: （1）26-28年度における成長投資の投資効果イメージを示すものであり、各事業全体の資本効率を示すものではない

# 財務計画



○ 2040年度に、アセットマネジメント除きの事業利益400億円（現状の約2倍）、ROIC6%をベースに、**資産入替の継続実行により、高いROICを追求**




| | 24(実績) | 25(実績) | 26-28平均 | 2030 | 2040 |
|---|---|---|---|---|---|
| ROIC (1) | 14.9%(2) | 7.7%(2) | 4.5% +a | 4% +a | 6% +a |

注記：（1） ROIC = 税引後事業利益 ÷ 投下資本（期首・期末平均）
（2） 売却益や一時的な為替影響を除いた場合、24年度ROIC：4.8%、25年度ROIC：4.7%

# 資産入替の具体例　～ENW社株式の一部売却～



○ 2019年、英国中西部で配電事業を行うエレクトリシティ・ノース・ウエスト（ENW）社の一部株式を取得。同社はマンチェスター・カンブリア地域で約500万人の顧客にサービスを提供。

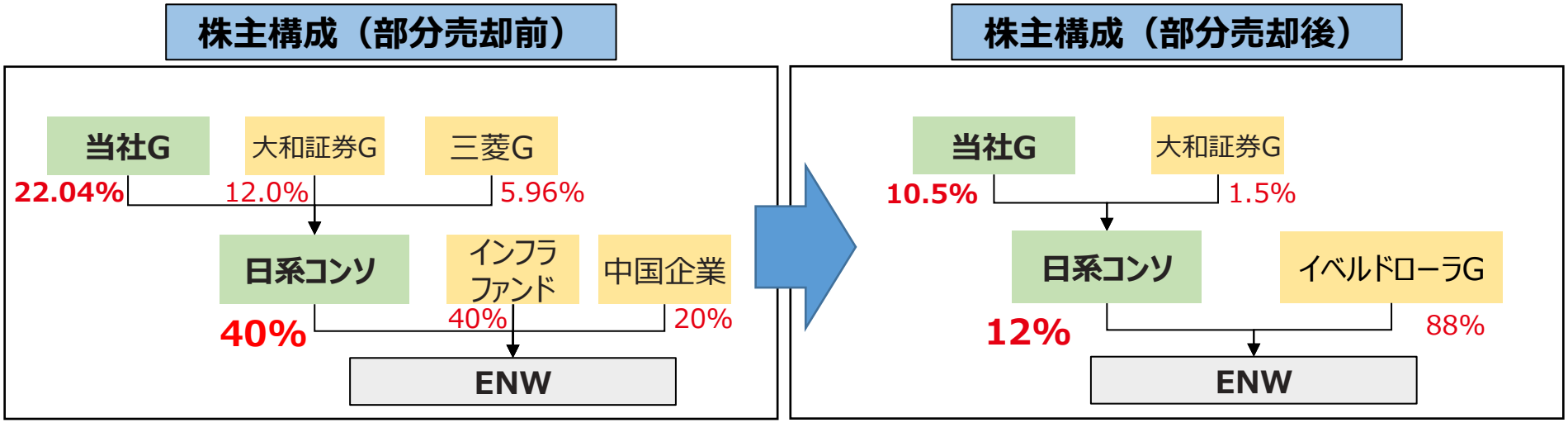






○ 事業価値や将来性、戦略的意義・資本効率等を総合的に勘案し、2024年度にENW社の**持分を一部売却（出資比率22.04%→10.5%）し、253億円の純利益を獲得**。

○ 保有・売却を適切に判断するとともに、より良い案件への投資を通じて、ポートフォリオ全体の価値向上に取り組んでいく。



# 本日のご説明




**1．海外エネルギー事業の目指す姿** ・・・・ P. 2

- 資本効率を重視した規律ある成長投資
- 財務計画

**2．事業概要** ・・・・ P. 6

- 当社海外エネルギー事業の歩み
- プロジェクト一覧
- コンセプト
- 事業ポートフォリオ

**3．経営計画の達成に向けて** ・・・・ P. 11

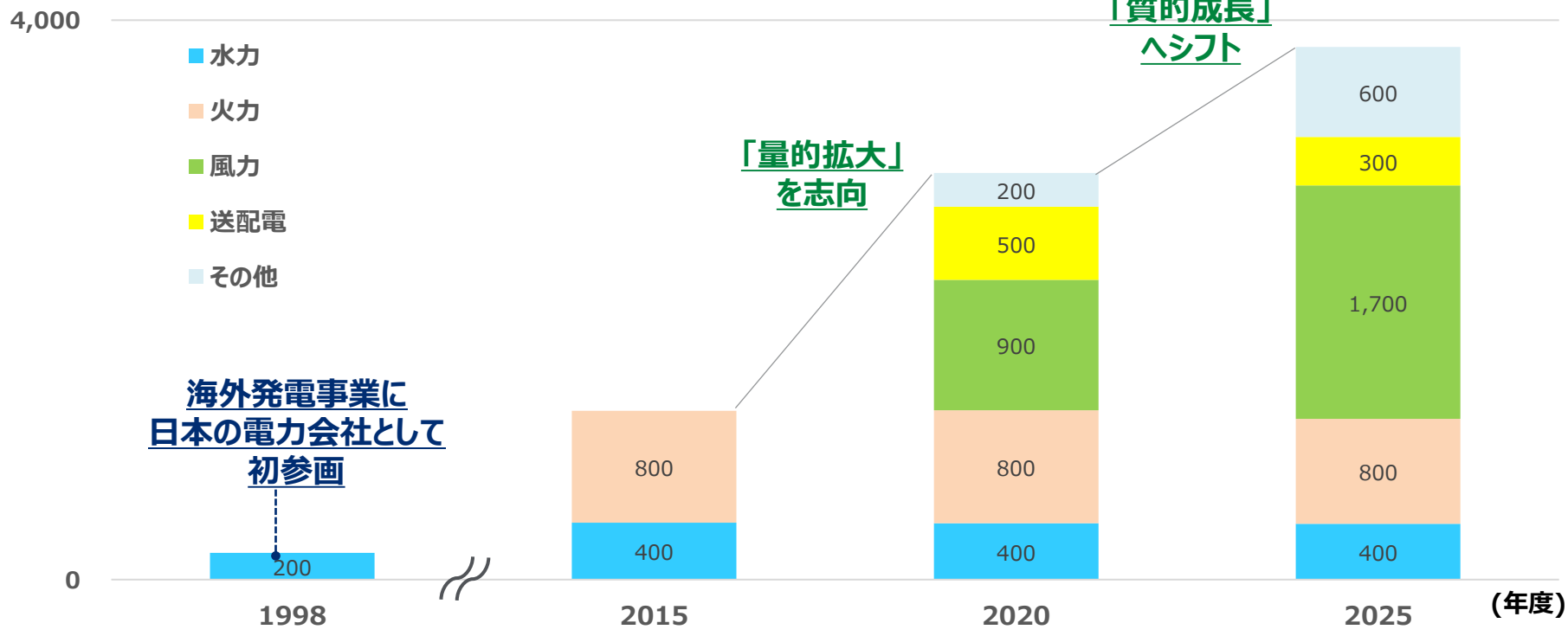
- 事業戦略
- 具体施策

# 当社海外エネルギー事業の歩み



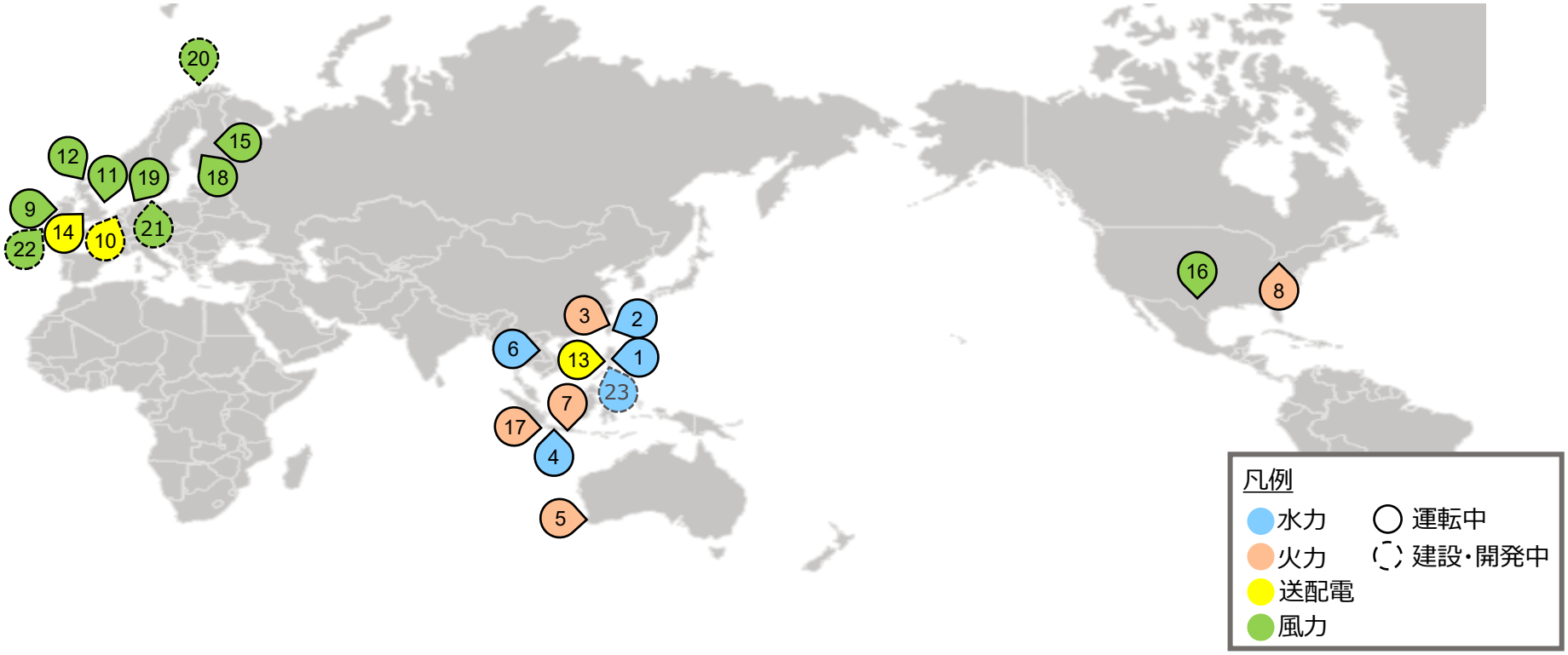
- 1998年にフィリピン共和国のサンロケ水力発電事業に参画し、**日本の電力会社として初めて海外の発電事業に進出**
- 2016年から、**投資対象や地域を広げ、「量的拡大」を志向**
  2020年頃から**「質的成長」にシフトし、より収益性の高いポートフォリオ構築を志向**
- 現在、**11ヵ国23プロジェクトに参画**
  ・発電事業：10,000MW(グロス)、当社持分容量2,500MW
  ・送配電事業：3ヶ国3プロジェクトに参画

**【投融資コミット額（億円）】**※数字は丸め表記



# プロジェクト一覧






| No. | 件名 | 国名 | 参画 | 容量 [万kW] | 当社 持分比率 | 持分容量 [万kW] |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | サンロケ水力 | フィリピン | 1998 | 43.5 | 50.0% | 21.8 |
| 2 | 名間水力 | 台湾 | 2005 | 1.7 | 24.0% | 0.4 |
| 3 | 国光火力 | 台湾 | 2006 | 48.0 | 6.0% | 2.9 |
| 4 | ラジャマンダラ水力 | ｲﾝﾄﾞﾈｼｱ | 2012 | 4.7 | 49.0% | 2.3 |
| 5 | ブルーウォーターズ火力 | ｵｰｽﾄﾗﾘｱ | 2013 | 45.9 | 50.0% | 23.0 |
| 6 | ナムニアップ１水力 | ラオス | 2013 | 29.0 | 45.0% | 13.1 |
| 7 | タンジュン・ジャティＢ5&6 火力 | ｲﾝﾄﾞﾈｼｱ | 2015 | 214.0 | 25.0% | 53.5 |
| 8 | ヒッコリーラン火力 | 米国 | 2017 | 100.0 | 30.0% | 30.0 |
| 9 | エヴァレイアー陸上風力 | ｱｲﾙﾗﾝﾄﾞ | 2017 | 22.3 | 24.0% | 5.4 |
| 10 | ノイコネクト英独連系線 | 英国・ﾄﾞｲﾂ | 2018 | – | 17.5% | – |
| 11 | トライトンノール洋上風力 | 英国 | 2018 | 85.7 | 16.0% | 13.7 |
| 12 | モーレイイースト洋上風力 | 英国 | 2018 | 95.3 | 10.0% | 9.5 |

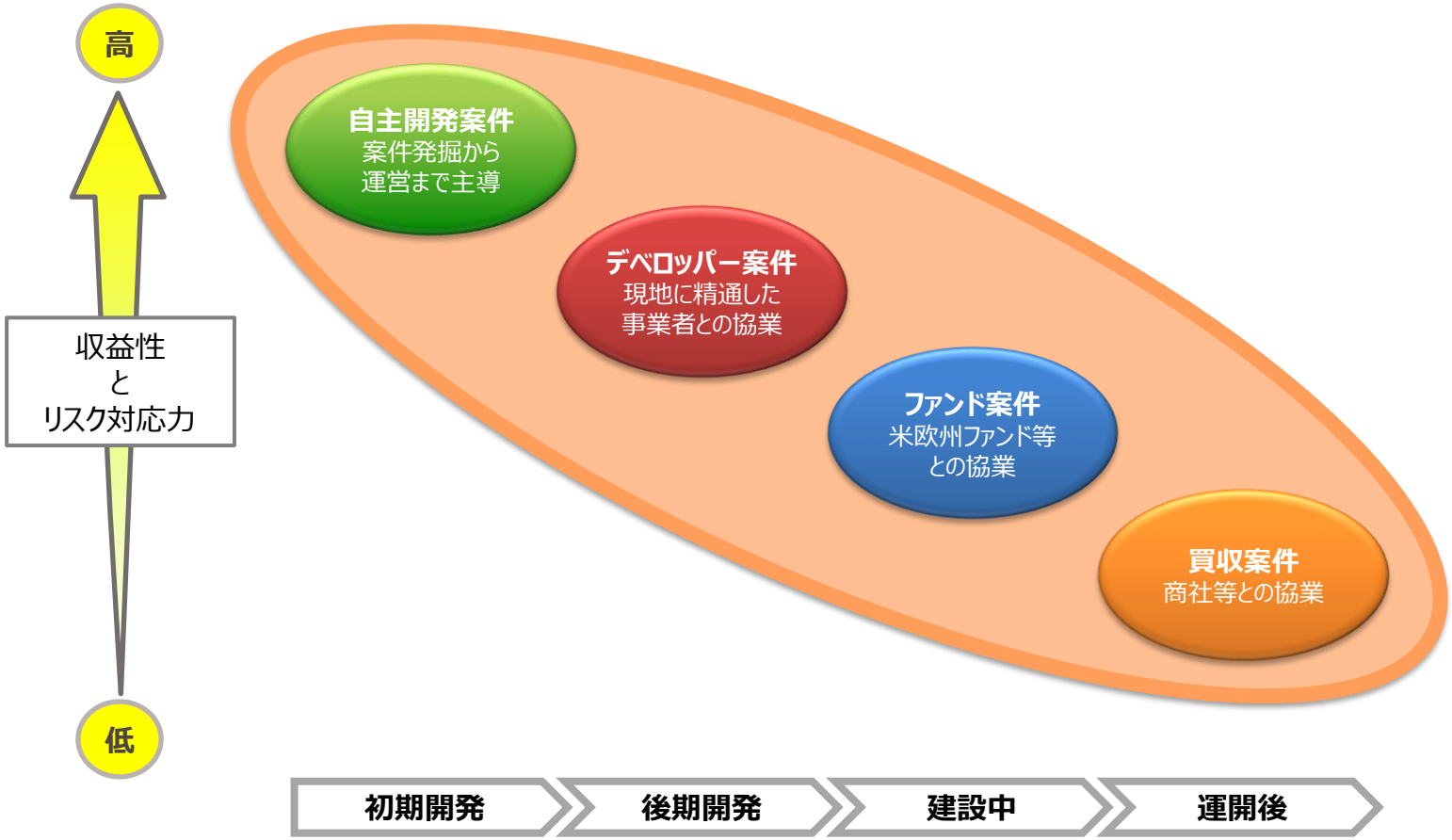
| No. | 件名 | 国名 | 参画 | 容量 [万kW] | 当社 持分比率 | 持分容量 [万kW] |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 13 | ニュー・クラーク・シティ 配電・小売 | フィリピン | 2019 | – | 9.0% | – |
| 14 | エレクトリシティ・ノースウエスト配電 | 英国 | 2019 | – | 10.5% | – |
| 15 | ピーパリンマキ陸上風力 | ﾌｨﾝﾗﾝﾄﾞ | 2020 | 21.1 | 15.0% | 3.2 |
| 16 | アビエータ陸上風力 | 米国 | 2020 | 52.5 | 48.5% | 25.5 |
| 17 | メドコ・関西合弁会社火力 | ｲﾝﾄﾞﾈｼｱ | 2021 | 22.8 | 40.0% | 9.1 |
| 18 | アラヤルヴィ陸上風力 | ﾌｨﾝﾗﾝﾄﾞ | 2021 | 22.1 | 49.0% | 10.8 |
| 19 | ボークムリフグルンド３洋上風力 | ドイツ | 2022 | 91.3 | 3.5% | 3.2 |
| 20 | ゴリアテヴィンド浮体式洋上風力 | ノルウェー | 2023 | (7.5) | 20.0% | (1.5) |
| 21 | ヴィンダンカー洋上風力 | ドイツ | 2025 | 31.5 | 49.0% | 15.4 |
| 22 | シンプリー・ブルー・エナジー | ｱｲﾙﾗﾝﾄﾞ | 2025 | - | - | - |
| 23 | ワワ揚水 | フィリピン | 2026 | 60.0 | 12.2% | 7.3 |

※2026.8末時点

# コンセプト



- 電気事業を中核として海外エネルギー事業を展開し、**現地への経済・環境価値の提供と、グループの安定的な収益基盤の構築を両立**する。
- 案件の特性、リスク・リターン、当社の強みを見極め、**最適な段階・手法で参画**。
  海外ポートフォリオの収益性向上に向け、案件開発力・リスク対応力を継続的に高度化。

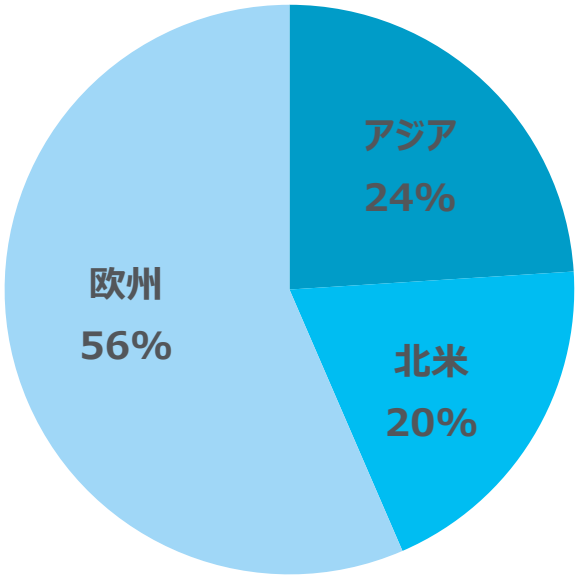


# 海外エネルギー事業ポートフォリオ

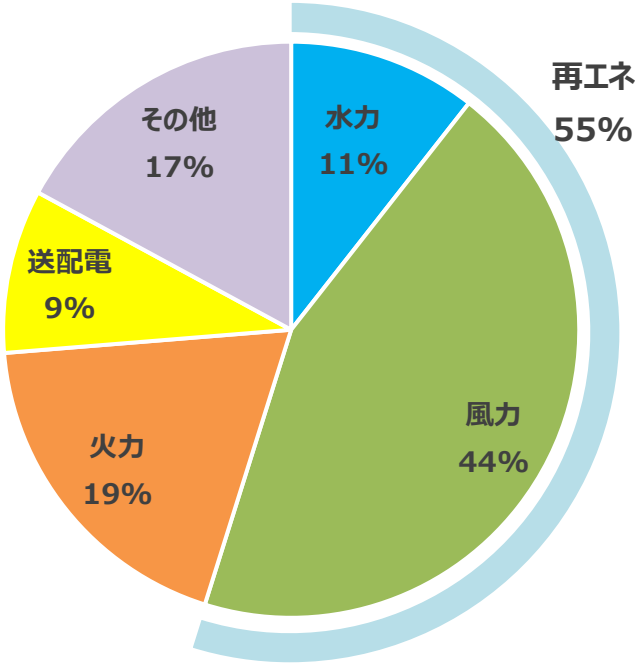


- アジア・北米・欧州において、再エネを中心に発電から送配電まで幅広い事業に投資
- 長期売電契約等を活用することにより、**安定的な収益を確保**

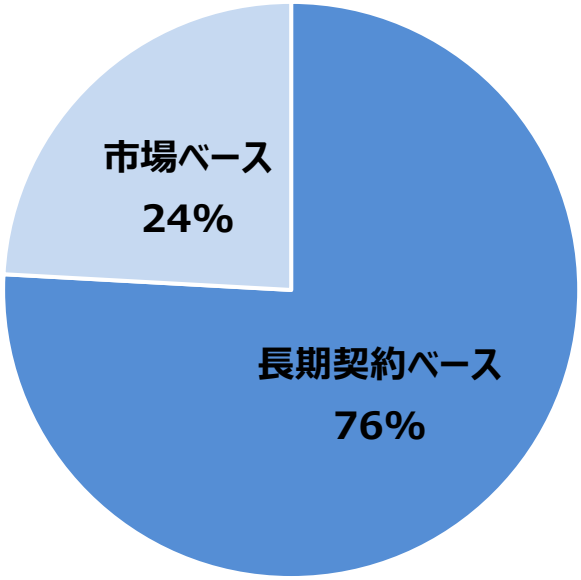
## エリア別




## 投資対象別




## 収益安定性




※投融資コミット額ベース
※2026.3末時点

# 本日のご説明



**1．海外エネルギー事業の目指す姿** ・・・・ P. 2

- 資本効率を重視した規律ある成長投資
- 財務計画

**2．事業概要** ・・・・ P. 6

- 当社海外エネルギー事業の歩み
- プロジェクト一覧
- コンセプト
- 事業ポートフォリオ

**3．経営計画の達成に向けて** ・・・・ P. 11

- 事業戦略
- 具体施策

# 海外エネルギー事業の戦略と今後3年間の実行計画



| 2040年 目指す姿 | 海外におけるEX（エネルギー・トランスフォーメーション）の主要プレイヤーへ |
|---|---|

| 2026–28年度 経営計画 | 海外エネルギー分野の成長投資 | 事業利益（年度平均） | ROIC（年度平均） |
|---|---|---|---|
| | 1,000億円 | 200億円＋α | 4.5%＋α |

| 目指す姿に向けた戦略軸 | 向こう３年間の具体施策 |
|---|---|
| **1 安定収益基盤を土台に事業規模を拡大**<br>既存資産の安定収益を確保し、成長投資を着実に積み上げる | • 既存ポートフォリオのアセットマネジメントを強化し、利益の安定化を図る<br>• 再エネ・蓄電池・送配電を中心に新規投資を推進 |
| **2 投資規律と資産入替で資本効率を向上**<br>収益性・リスク・事業期間を見極め、より強いポートフォリオへ転換する | • ポートフォリオへの短中長期影響を踏まえた厳格な投資基準で新規案件を選別<br>• 戦略的な資産入替により、早期収益獲得を実現し、高収益案件へ資本を再配分 |
| **3 現地パートナーとの協業で案件創出力を強化**<br>制度・商慣行・市場環境に関する現地知見を取り込む | • イベルドローラ、メドコ等との協業を深め、優良案件へのアクセスを拡大<br>• 海外拠点・投資先事業会社のネットワークを活用し、新たなパートナーを開拓 |
| **4 自主開発力を蓄積し、トップランナーのプレゼンスを確立**<br>国家レベルの構想に早期参画し、先行者としての地位を確立する | • AZECの枠組みで、インドネシアの島間連系送電線整備を支援。国内の送配電知見を活かし、構想支援から事業化検討へ関与を深める |

# 具体施策① 現地事情に精通したパートナーとの関係構築



○ 当該国・地域での事業環境に精通した「欧州のイベルドローラ」、「インドネシアのメドコ」等のエネルギー企業と関係を構築。

○ こうした**関係を活かして厳選した新規投資案件を探索**する一方、海外拠点や投資先事業会社における活動等を通じて、**現地知見を有するパートナーの更なる拡充にも取り組んでいく**。

## スペイン大手電力会社イベルドローラとの戦略的協業に関する覚書の締結

- イベルドローラと、ドイツのヴィンダンカー洋上風力、英国のエレクトリシティ・ノースウエスト配電で協業中。
- 2025年2月21日、覚書を締結。再エネ・送配電事業をはじめ様々な領域において、戦略的なパートナーシップを構築することで両社の強みを最大限発揮し、グローバルな事業推進をさらに加速していく。




覚書調印式　左：イベルドローラ イグナシオ・ガラン会長
右：関西電力 執行役常務 グローバルEX事業本部長 桑原 徹

# 具体施策② 官民連携による国際・地域間連系線等の案件開発



○ 国内でこれまで培ってきた**エネルギー会社としての強み**を活かして、**国家レベルのエネルギー関連投資の仕組み作りから参画**することで、中長期的な収益への貢献とトップランナーのプレゼンスを確立する。

○ 現在、AZEC（アジア・ゼロエミッション共同体）の枠組みで、インドネシア電力公社PLNに対して、島間連系送電線整備による脱炭素化の推進について、サポートしている。

## インドネシア島間連系送電線整備事業 検討体制

**国内WG**

経済産業省 Ministry of Economy, Trade and Industry

Kansai Electric Power Group power with heart

サポート

レポート

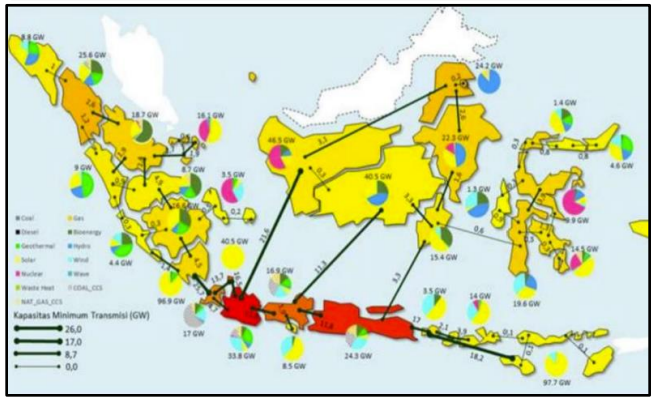
**インドネシア・事業検討WG**

（尼国政府・電力公社）

PLN

Kansai Electric Power Group power with heart

### 州間（島間）連系線整備イメージ



参照元：RUKN2023、2060 Scenario

### （例）スマトラ-ジャワ連系線プロジェクト

スマトラ島とジャワ島を結ぶ、島間連系線プロジェクト

＜設備概要（暫定）＞
設備容量: 2.6GW
電圧階級: 320kV
交直変換設備： 2ヶ所
ルート長：直流海底 約40km＋直流架空 約480km

# ラオス・ナムニアップ1水力発電事業（動画）



○ **黒部第四発電所（くろよん）建設など国内で培った技術・ノウハウを活用**し、
第2の「くろよん」と呼ばれる巨大ダムをラオスで建設。
地域の発展や脱炭素社会の実現に貢献。



関西電力

power with heart

本資料には、将来の業績および計画に関する記述が含まれております。こうした記述は将来の業績および計画を保証するものではなく、リスクと不確実性を内包するものです。将来の業績および計画は、経営環境に関する前提条件の変化などに伴い変化することにご留意ください

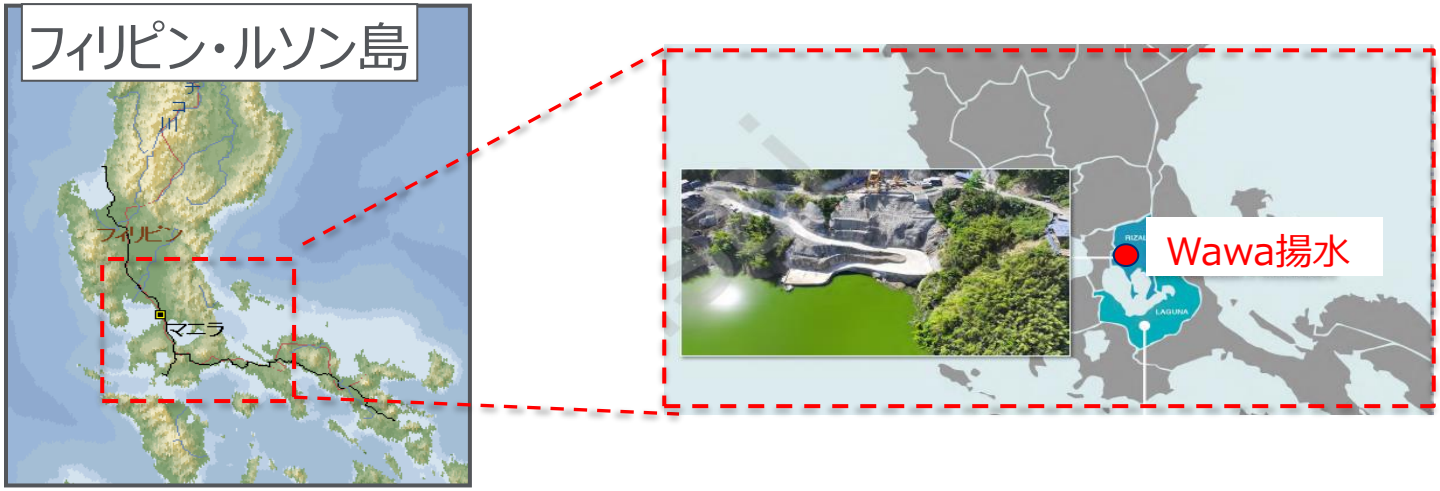
# 最近の動き：フィリピン共和国ワワ揚水発電事業への参画



○ 現地事情に精通した有力財閥プライムインフラ社と協業（2026年7月参画）

○ 国内電気事業で培ってきた揚水の知見・経験を活かし、建設・運用面でプロジェクトに貢献。

| | |
|---|---|
| 場所 | フィリピン共和国ルソン島南部（首都マニラから東に約42km） |
| 発電設備 | 出力600MW（300MW×2基）、可変速揚水発電方式 |
| 収入スキーム | 再エネ導入促進制度”GEAP”（Green Energy Auction Program）による20年長期固定収入 |
| 運転開始 | 2030年予定 |
| 出資者 | 当社　：12.18%<br>プライム・インフラストラクチャー・キャピタル社　：51.13%<br>ファースト・ジェン社　：24.69%<br>その他　：12.00% |



関西電力グループ
power with heart



# Kanden Investor Day
## 蓄電所事業

2026年10月5日

# 本日のご説明




## 1．事業概要 ・・・・ P. 2

- ソリューションサービスの取組み
- エネルギー3.0に向けたソリューションサービス例
- 電力システムを取り巻く環境変化
- 蓄電所市場の見立て
- 当社グループの蓄電所事業（ビジネスモデル、収益・コスト構造）

## 2．当社の開発の歩みと競争優位性 ・・・・ P. 12

- 開発の歩み
- 競争優位性

## 3．経営計画の達成に向けて ・・・・ P. 21

- 蓄電所の開発状況
- 経営計画達成に向けた取り組み
- 今後の方向性

# ソリューションサービスの取組み

## お客さまニーズに応える最適なソリューションの提供

お客さま価値の創造

- エネルギーを軸としたソリューションサービスの提供と新たな事業領域への挑戦を相互に連携させ、最適な形でお届けする「エネルギー3.0」を強力に推進し、長期的なパートナーとして、お客さまとともに成長する

### お客さまや社会のニーズに応える取組み

**脱炭素化**
- 分散型リソースやゼロカーボン電力の提供拡大
- 脱炭素ソリューションのラインナップ多様化

**エネルギーコスト低減**
- 電力調達や市場取引の高度化
- エネルギー使用データや機器制御等を活用したエネルギー利用の最適化

**新たなサービス**
- 事業や暮らしを支えるサービスの拡充
- 社会変化や技術革新を捉えたサービスの創出

### エネルギー3.0

両取組みを相互に連携させ最適な形でお届け




新たな価値の提供 ／ 長期的なパートナー関係の構築 ／ 収益基盤の確立

### 向こう3年間の取組み

**収益力強化**

- お客さまニーズを起点に、エネルギー（電気・ガス）とソリューションの一体提供による価値創出と収益力向上を実現

**家庭** ・お客さま接点の強化、住宅設備や暮らしサービスとエネルギーをつなぐ提案

**法人** ・EMS(1)を軸としたエネルギーと脱炭素ソリューション（お客さまのScope1～3削減支援）の一体提供

**成長加速**

**新たな事業の創出**
- 投資効率を重視しつつ、蓄電所等への資源配分を強化し、新たな収益基盤の構築と持続的な事業拡大を推進

**既存事業とのシナジー**
- 銀行サービスによるGX ZEH(2)住宅の販売強化等、新たな事業と既存事業とのシナジー創出

※ 「関西電力グループ 経営計画2026(2026/4/30)」

# ソリューションサービスの取組み

## エネルギー事業の戦略（小売・ソリューション）

**2040年の目指す姿**

関西エリア内に留まらず、全国・海外のお客さまから
長期的に選ばれるサービスプロバイダーとなる

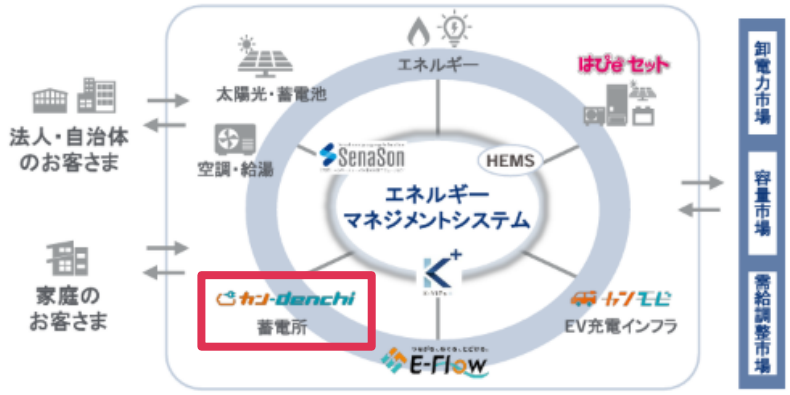
### 目指す姿に向けた事業戦略

**事業環境**
- DC新設や電化の進展により、電力需要は中長期的に拡大
- 自由化により選択肢が拡大するなか、価格・安定性への期待が一層向上
- 分散型リソースの拡大に伴い、脱炭素等のお客さまニーズが高度化

**強み**
- 関西エリアを中心とした顧客基盤
- 多様なソリューションサービス（ユーティリティサービス、太陽光DER等）

**戦略**
- エネルギー（電気・ガス）とソリューションサービスの一体提供を通じ、ゼロカーボン社会の実現に向けたお客さまの課題解決に貢献する
- エネルギー事業とのシナジーや市場環境等の変化を踏まえ、競争力のあるソリューションサービスのポートフォリオを構築する

**エネルギーとソリューションの一体提供**




### 向こう3年間の具体施策

- 蓄電所事業をはじめとするエネルギー周辺の新領域への事業拡大
- 機器制御を含むエネルギーマネジメントサービスを軸に、エネルギー販売と分散型リソースサービスの一体提供を推進
- 全国や海外（タイ・ベトナム・インドネシア）のお客さまへのサービス提供
- 工業炉等のガス設備に対するソリューション提供（省ガス改修、重油等からのガス転換、電気転換）
- 各ソリューションサービスの特性・規模に応じたプロジェクトファイナンス等の活用による、資本効率の向上

**蓄電所事業**
- 国内トップランナーを目指す（2030年代早期に約100万kWの運用）



紀の川蓄電所（2024年運開）

**海外ソリューション**
- 海外工場の脱炭素・コスト削減を関電品質でフルサポート

タイ（2018年設立）
KEST
国内事業
ベトナム（2021年設立）
KESV
インドネシア（2024年設立）
KESI

※「関西電力グループ 経営計画2026(2026/4/30)」

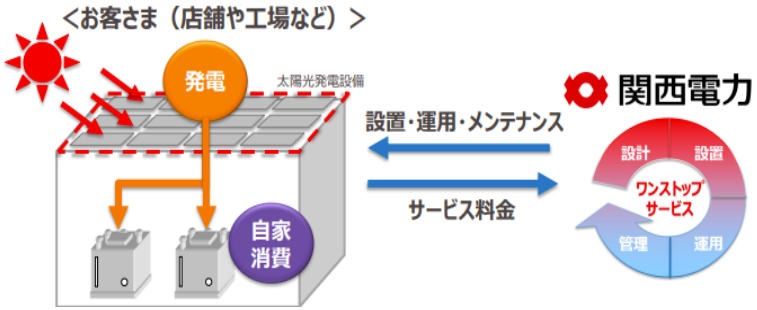
# エネルギー3.0に向けたソリューションサービス



○ 多様なサービス展開で、競争力のあるソリューションサービスのポートフォリオを構築していく

## 太陽光オンサイト 【2019年5月～】

- 初期費用ゼロで、導入時の工事から導入後の運用・メンテナンスまで、ワンストップで対応




**採用実績※1**
**700地点以上**
**全国各地**



※1：2026年4月時点

## 海外ソリューション 【2018年8月～】

- ３か国に現地子会社を設立。太陽光発電やコージェネレーションシステム、高効率チラー等を、設計から運営・保守まで一貫して提供

2018年 タイ
2021年 ベトナム
2024年 インドネシア

**採用実績※2**
**100地点以上**




※2：2026年１月時点

# エネルギー3.0に向けたソリューションサービス



## CQバンク 【2025年11月～】

- 預金を全てゼロカーボンの実現に資する事業へ投融資する「グリーンバンク」
- 「Japan Financial Innovation Award 2026（JFIA 2026）」にて【コラボレーション部門賞】を受賞

**適格投融資充当額※3**
**72.1億円**




※3：2025.11（事業開始）～2026.6末平均預金残高相当

## モアクト 【2026年7月～】

- 生活者の社会貢献への意識や行動変容を促す社会貢献活動促進サービス「モアクト」（スマートフォンなどで利用可能）

**ユーザー数※4**
**約17万人**

いいタネ、どんどん、根づいてく。
モアクト



※4：2026年８月時点

**本日のご説明**

## 蓄電所事業 【2024年12月～】

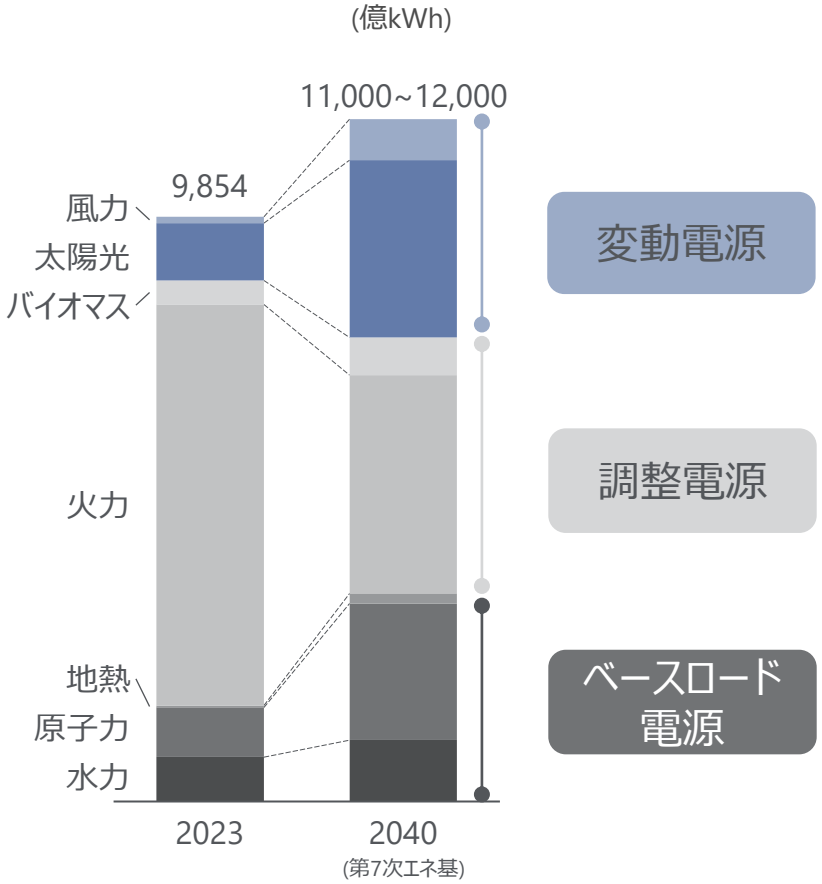
- 全国で調整力が不足している状況を踏まえ、「各地域の需給の安定への貢献」と「ソリューションサービスの拡大」の観点から、全国をターゲットに事業を推進

# 電力システムを取り巻く環境変化



- ○ 再エネ普及による変動電源の増加や火力の休廃止により、調整力不足が構造的に拡大
- ○ 再エネの出力変動に即応できる蓄電所の価値が高まっている

## ■ 電源構成の変化




## ■ 電源構成の変化に起因する影響

再生可能エネルギーの普及により、
変動電源が増加

**“調整力不足による
供給支障リスクの増加”**

火力発電の減少により、発電量の
変動に対応する調整電源が減少

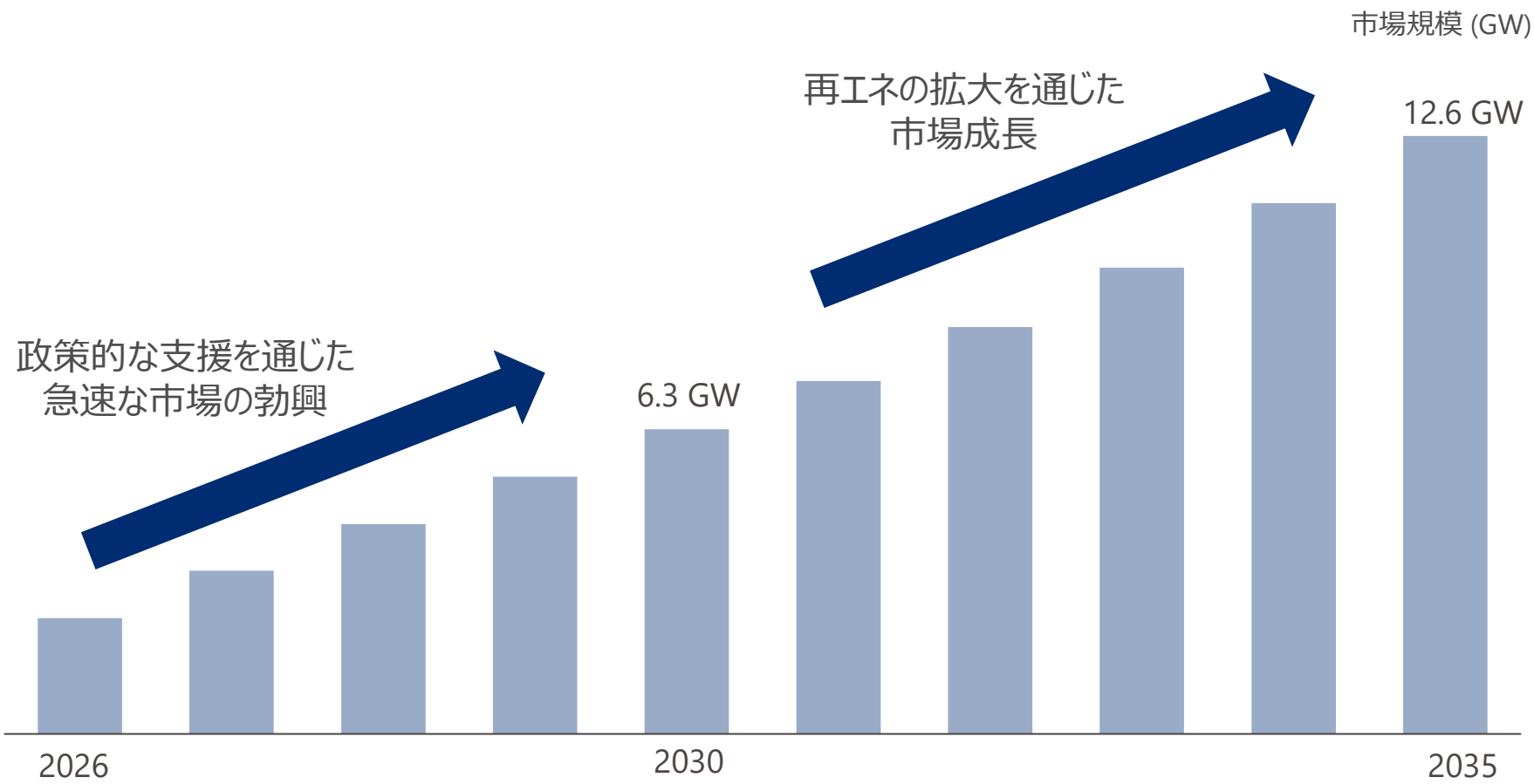
※ 経済産業省「2040年度におけるエネルギー需給の見通し(2025/2/18) 」
※ 内閣官房GX実行推進室「分野別投資戦略について③（蓄電池・自動車、SAF・航空機、船舶、資源循環）(2023/11/8)」

# 蓄電所市場の見立て



- ○ 長期脱炭素電源オークションや補助金等の政策支援により、新規参入が活発化
- ○ 再エネ拡大に伴う系統用蓄電所ニーズの高まりも背景に、今後の市場成長が見込まれる

■ 市場規模想定



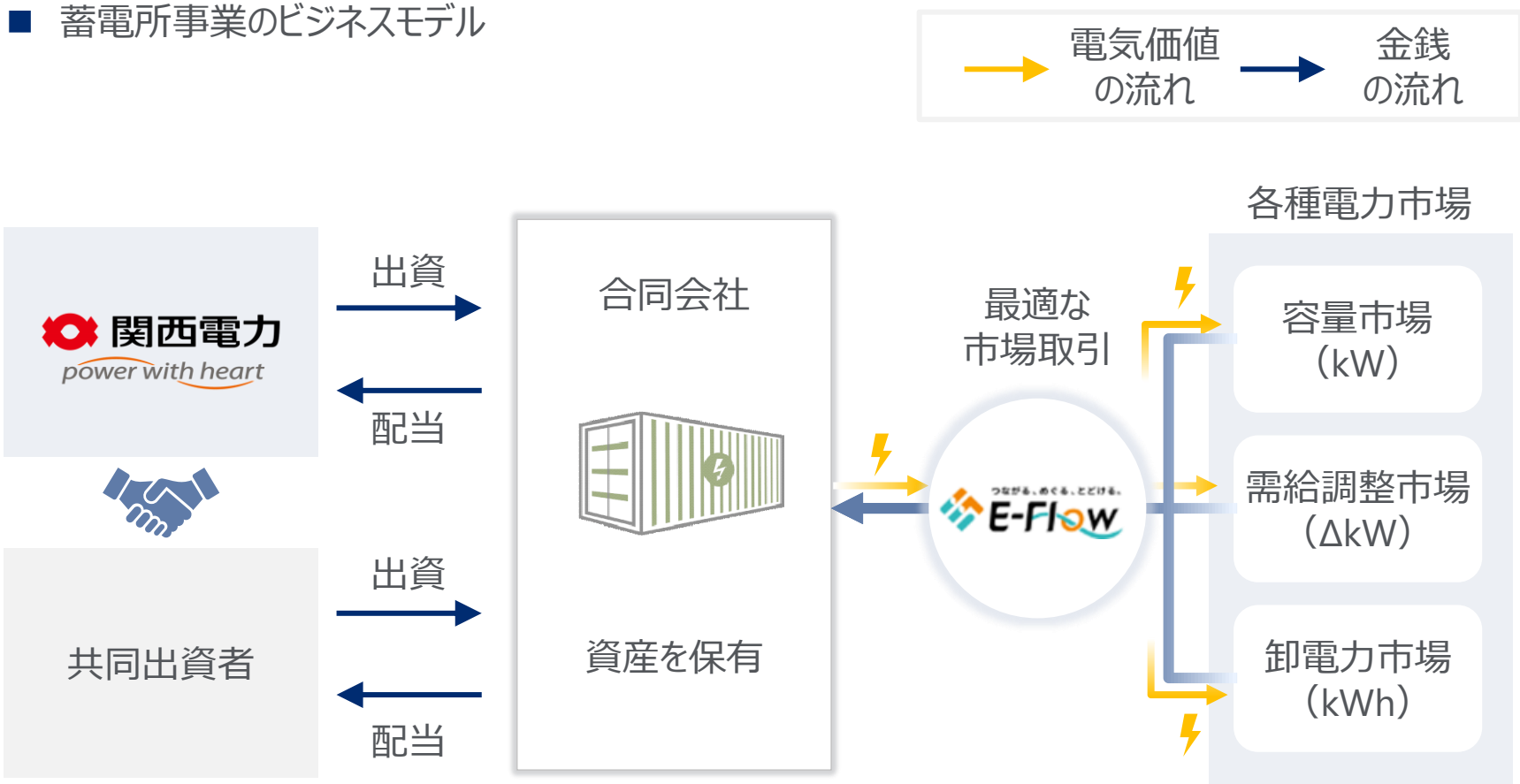

※ 市場規模算出方法：~2030年導入量は、内閣官房GX実行推進室「分野別投資戦略について③（蓄電池・自動車、SAF・航空機、船舶、資源循環）（2023/11/8）」。2030年~導入量は、2030年時点の導入量に対し、調整力の不足設備容量の成長率をかけて算出。調整力の不足設備容量は、2034年について資源エネルギー庁「再生可能エネルギー出力制御の長期見通し等について(2025/6/7)」から算出。2034年以外の年の不足設備容量は、2034年の各電源の供給量に対し、第六次エネ基の2030年と第七次エネ基の2040年の各電源の発電電力量の変化率を掛けることで、調整力の需給ギャップを算出

# 当社グループの蓄電所事業（ビジネスモデル）



- ３つの電力市場で最適な取り引きを行い、収益化を図るビジネスモデル
- 電力需給に最大限に貢献するための最適な市場取引を目的に、2023年に国内で初めてDER運用に特化した会社：E-Flowを設立し事業を展開

■ 蓄電所事業のビジネスモデル



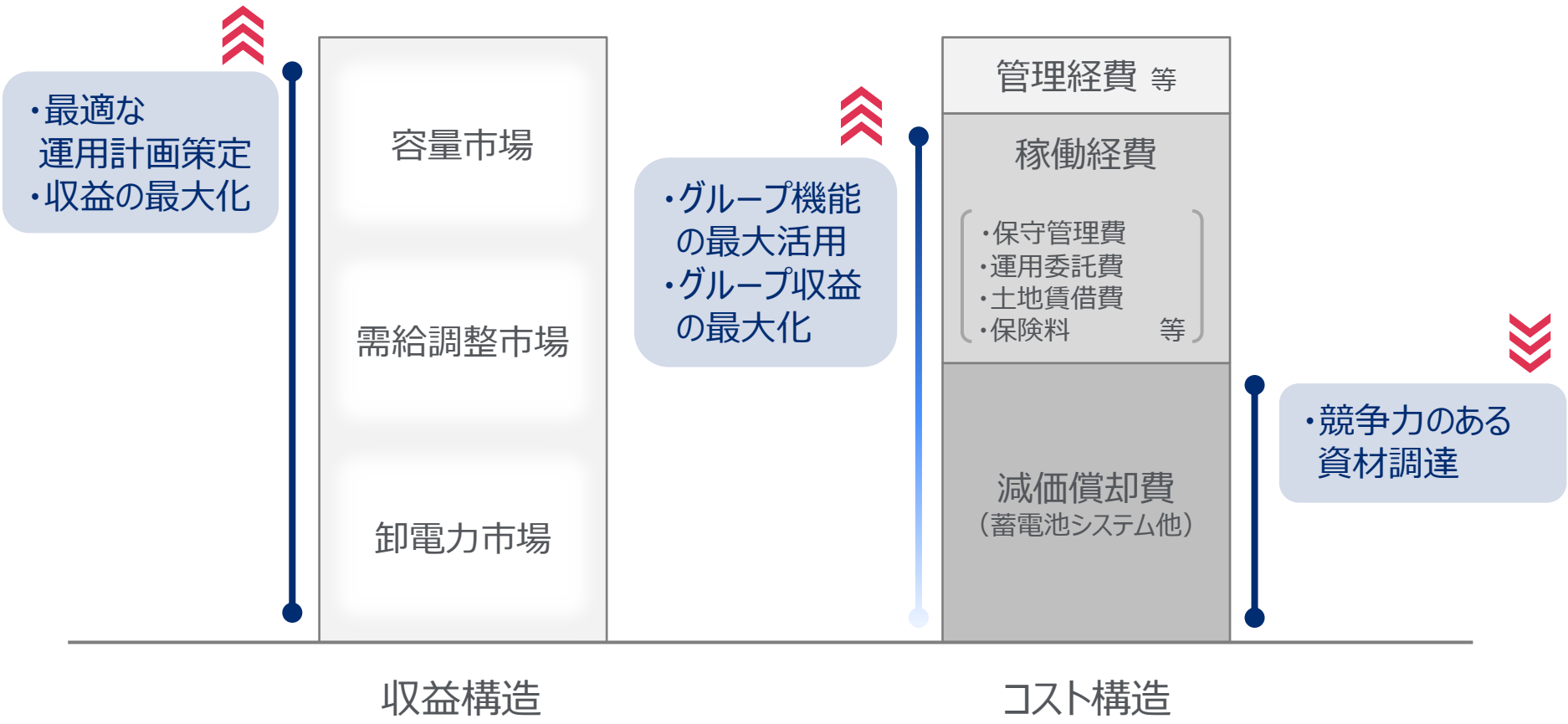
# 蓄電所事業の収益構造とコスト構造



○ 高い収益性の見込める大規模特高蓄電所に注力し、収益最大化と低コスト化を追求

○ 電力事業で培った知見を活かし、他社に先駆けた事業展開により競争優位性を確立

■ 一般的な蓄電所事業の収益・コスト構造（イメージ）

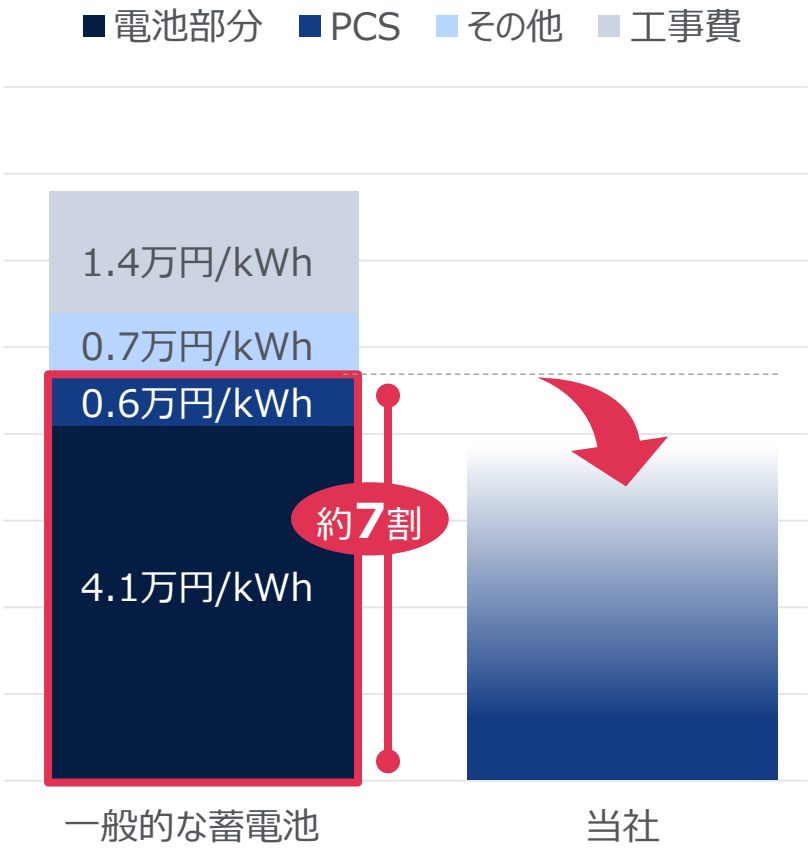


# 競争力のある資材調達



○ コストの太宗を占める蓄電システムに対し、技術難度の高い大規模特高蓄電所開発と、開発実績・規模を活かした戦略的な調達により、コスト競争力を確保

■ 系統用蓄電システムの価格水準(kWh単価)※




## 大規模特高蓄電所の開発

- 技術的難度が高いが、電力事業で培った知見を活かし、コスト低減が可能※な大規模特高蓄電所を開発




## 開発実績・規模を活かした戦略的な調達

- 国内トップクラスの開発規模と実現確度の高い案件群を活かした、蓄電池メーカーとの条件協議により、高いコスト競争力確保を実現

※経済産業省「2024年度 定置用蓄電システム普及拡大検討会の結果とりまとめ(2025/3/7)」を参考に作成

# 本日のご説明




## 1．事業概要 ・・・・ P. 2

- ソリューションサービスの取組み
- エネルギー3.0に向けたソリューションサービス例
- 電力システムを取り巻く環境変化
- 蓄電所市場の見立て
- 当社グループの蓄電所事業（ビジネスモデル、収益・コスト構造）

## 2．当社の開発の歩みと競争優位性 ・・・・ P. 12

- 開発の歩み
- 競争優位性

## 3．経営計画の達成に向けて ・・・・ P. 21

- 蓄電所の開発状況
- 経営計画達成に向けた取り組み
- 今後の方向性

# 当社の事業開発の歩み



- ○ 蓄電所の重要性をいち早く認識し、全国に先駆け事業検討を推進
- ○ 蓄電所の開発・運営を通じてケイパビリティを蓄積。事業スキーム・サービスの拡充により、収益最大化と資本効率向上を追求

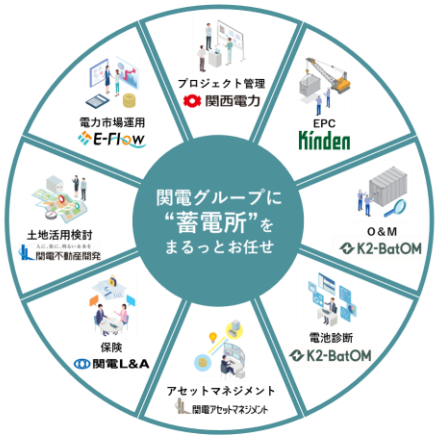
## 2024
**紀の川蓄電所運開**

市場での最適な運用計画の策定



## 2025
**カン-denchiサービスの展開**

グループ会社を活用した蓄電所事業の収益最大化




## 2026
**カン-denchiファンドの創設**

資本効率の最大化
迅速な開発基盤の構築



# 開発の歩み①　紀の川蓄電所



○ 需給調整市場の全ての商品取引が開始された2024年に合わせ、全国最大級の紀の川蓄電所の運用を開始

**和歌山県 紀の川市**

## 紀の川蓄電所

**運転開始**
**2024.12.1**

**敷地面積**
**約8,000㎡**

**定格出力**
**4.8万kW**

**定格容量**
**11.3万kWh**

**当社GでのIRR：1桁後半以上**

※　配当、EPC、市場運用等の当社Gサービスとしてのリターン



**稼働中蓄電所として**
**国内最大級**
**※当社調べ**

# 競争優位性①（豊富な運用データを活かした最適運用）



- AIと人の両輪で収益最大となる運用計画を策定
- 運用受託容量は2030年までに1.5GWを突破する見込みであり、豊富な運用実績データを基にした最適運用は競争優位の源泉

関西電力
市場・制度・運用
×
EXAWIZARDS
AIベンチャー・先進技術

系統蓄電池
運用システム
AI

## AIを活用した最適入札配分

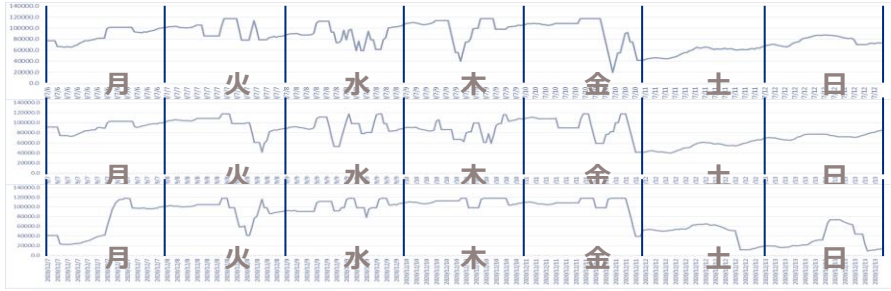
市場価格の変動に応じ、入札配分を提案




## 豊富なデータを活用した学習と検証

延べ6.5万日に相当するデータを活用し、開発・検証

検証の一例（運用結果SOCの推移：3週分）



# 開発の歩み②　カン-denchiサービスの展開



- ○ 蓄電所の開発から運用までワンストップで提供する【カン-denchiサービス】を確立
- ○ 多奈川蓄電所では、大手銀行で国内初となるフルマーチャント事業へのプロジェクトファイナンスを活用

**大阪府 泉南郡 岬町**

## 多奈川蓄電所

**運転開始予定**
**2028.2**

**敷地面積**
**約20,000㎡**

**定格出力**
**9.9万kW**

**定格容量**
**39.6万kWh**

**当社GでのIRR：10%以上※**

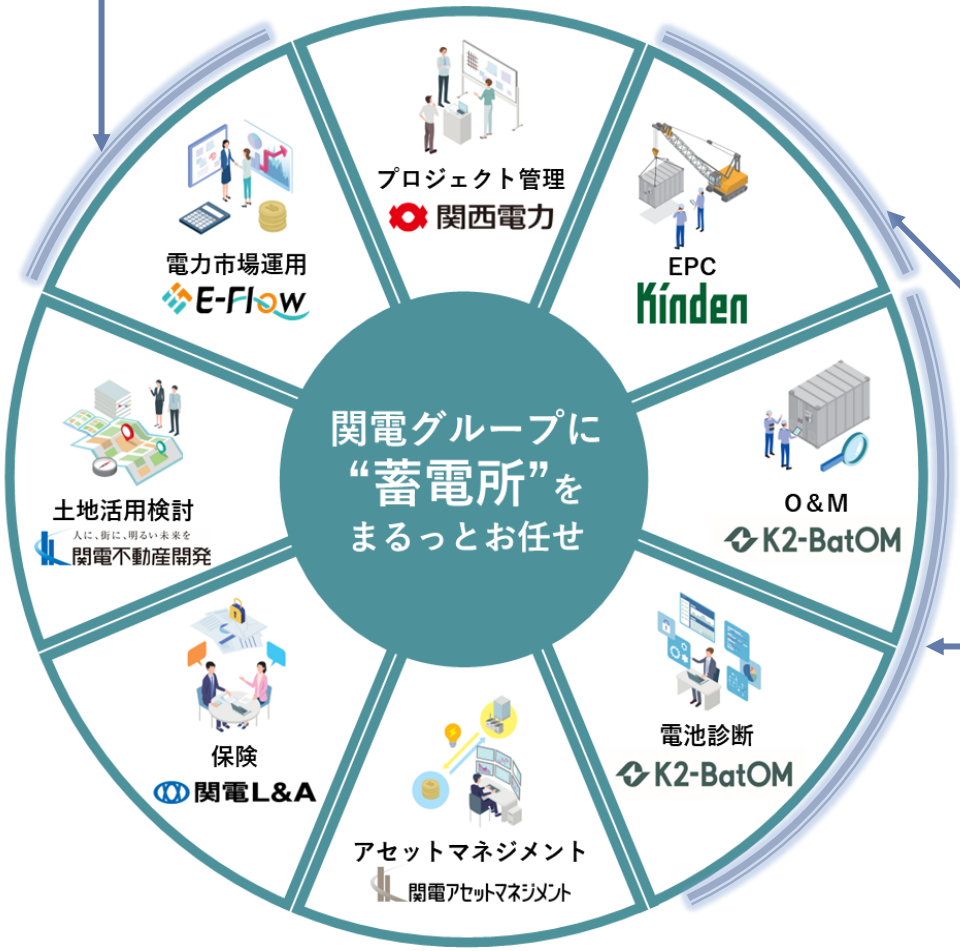
※　配当、EPC、O＆M等の当社Gサービスとしてのリターン



# 競争優位性②（グループ会社を活用した収益最大化）



- 開発・運営機能の内製化により、迅速かつ確度の高い案件組成と安定運営を実現
- グループ会社活用により、グループ外への資金流出を抑え、グループ全体での収益を最大化




## E-Flow合同会社　2023年4月 設立

- 分散型リソースから得られる電気価値の活用に特化した日本初の会社
- AIと取引ノウハウにより蓄電池の提供価値を最大化

## 株式会社きんでん　1944年8月 設立

- 特別高圧設備の施工実績が豊富

## 株式会社K2-BatOM　2025年12月 設立

- 関西電力ときんでんで蓄電所向けO&M会社を設立
- 電池診断と運転状態分析を組み合わせ、事業リスクを低減

# 開発の歩み③ カン-denchiファンドの創設



- 投資効率の向上と効率的な資金調達を両立する事業スキーム
- 蓄電所を投資対象とするファンドの設立は、大手電力会社としては国内初

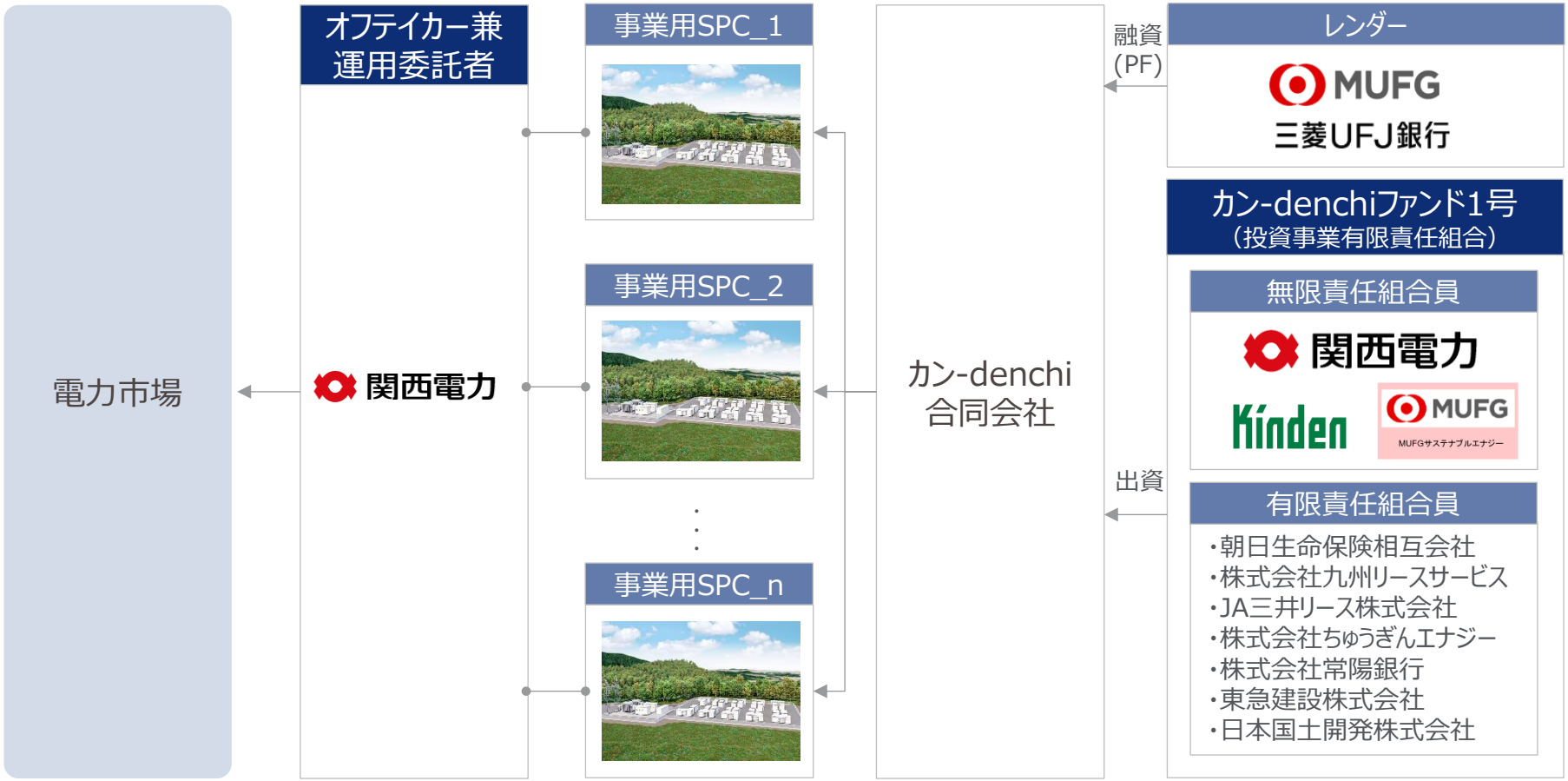
| | |
|---|---|
| ファンド名 | カン-denchiファンド 1号投資事業有限責任組合 |
| 設立年月日 | 2026年3月31日 |
| 投資対象 | 特別高圧の蓄電所 |
| ファンド規模 | 65億円 |
| 存続期間 | 26年 |
| FA兼 私募取扱業者 | 三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社 |
| 無限責任組合員（GP） | カン-denchiファンド合同会社（関西電力100%子会社）<br>きんでん蓄電池ファンド合同会社（きんでん100%子会社）<br>株式会社MUFGサステナブルエナジー（三菱UFJ銀行100%子会社） |

# 競争優位性③（資本効率の最大化と迅速な案件開発）



- きんでんと共に無限責任組合員を担い、市場取引・EPC・O＆M・保険等をグループで提供
- 外部の資金調達等による資本効率の最大化と、効率的な事業組成による案件開発の迅速化を実現

■ カン-denchiファンドのスキーム図



# 参考：春日井蓄電所



○ カン-denchiファンドの第１号案件として、春日井蓄電所の組み入れを2026年8月に公表
○ 第2号案件以降も2030年度中の運転開始を目指し、各地での案件検討を推進中

**愛知県 春日井市 内津町**

## 春日井蓄電所

**運転開始予定**
**2028.4**

**敷地面積**
**約7,500㎡**

**定格出力**
**3.9万kW**

**定格容量**
**8.1万kWh**



# 本日のご説明




## 1．事業概要 ・・・・ P. 2

- ソリューションサービスの取組み
- エネルギー3.0に向けたソリューションサービス例
- 電力システムを取り巻く環境変化
- 蓄電所市場の見立て
- 当社グループの蓄電所事業（ビジネスモデル、収益・コスト構造）

## 2．当社の開発の歩みと競争優位性 ・・・・ P. 12

- 開発の歩み
- 競争優位性

## 3．経営計画の達成に向けて ・・・・ P. 21

- 蓄電所の開発状況
- 経営計画達成に向けた取り組み
- 今後の方向性

# 蓄電所の開発状況



○ 全国8地点・9蓄電所での事業開発を公表しており開発容量においてはトップクラス

■ 当社の蓄電所の開発状況

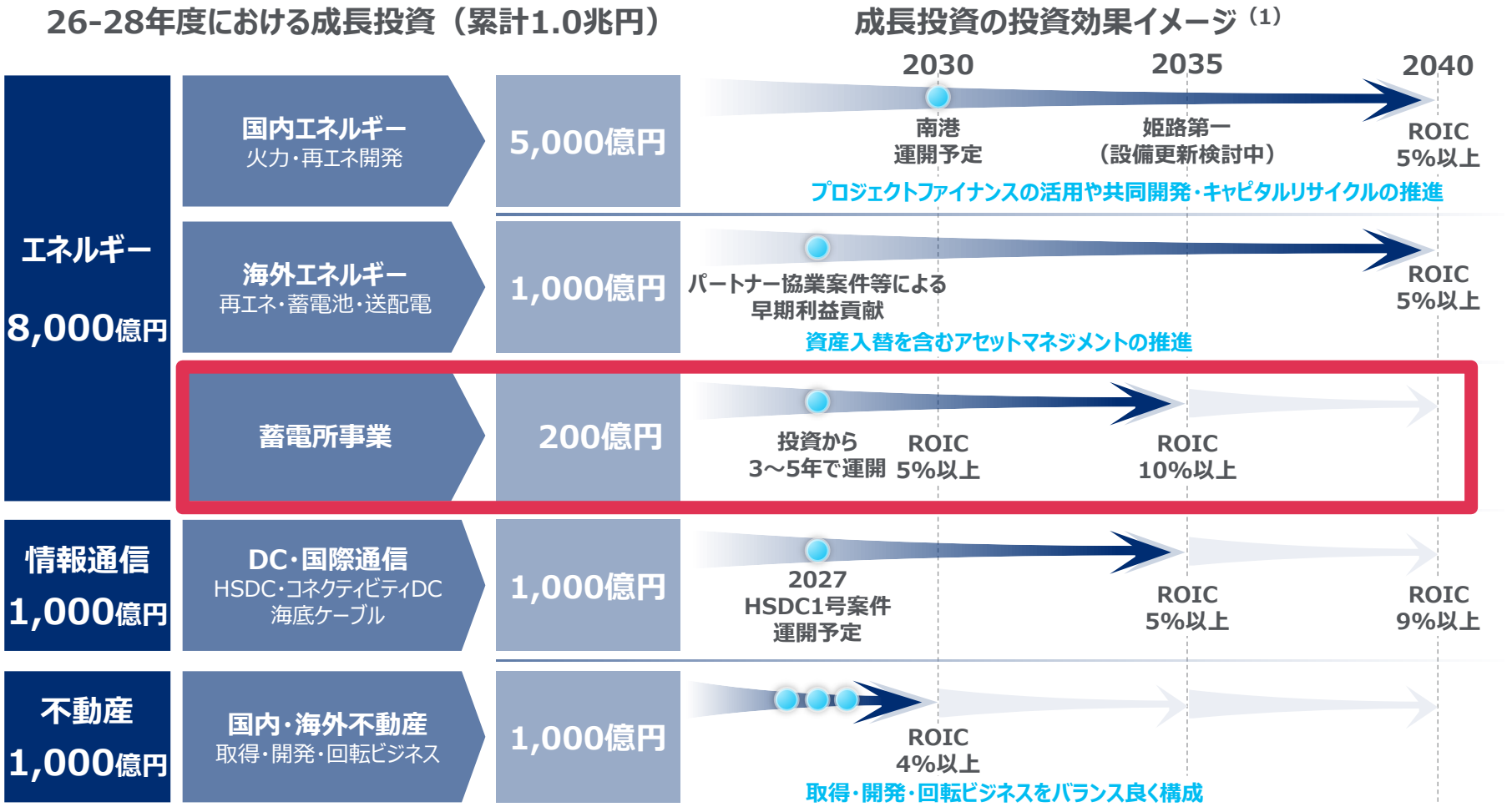



| 蓄電所名 | 定格出力 | 運開時期 | 事業体制 |
|---|---|---|---|
| 紀の川蓄電所 | 48MW | 2024年<br>12月1日 | 関西電力/オリックス |
| 札幌1・２蓄電所 | 50MW×2 | 2028年<br>4月予定 | 関西電力/JA三井リース/スパークスG |
| 多奈川蓄電所 | 99MW | 2028年<br>2月予定 | 関西電力/JEXI/<br>きんでん |
| 水戸蓄電所 | 50MW | 2029年<br>6月予定 | 関西電力/JA三井リース/スパークスG |
| 浜松蓄電所 | 30MW | 2028年<br>6月予定 | 関西電力/JA三井リース/スパークスG |
| 筑後蓄電所 | 39MW | 2028年<br>12月予定 | 関西電力/<br>東京センチュリー |
| 阿蘇蓄電所 | 50MW | 2029年<br>6月予定 | 関西電力/JA三井リース/スパークスG/福岡地所 |
| 春日井蓄電所 | 39MW | 2028年<br>4月予定 | カン-denchiファンド |
| **合計** | **45.5万KW<br>(455 MW)** | | |

# 経営計画達成に向けた取り組み



○ 蓄電所事業は高い収益性を見込める事業と位置づけ、グループ全体の資本効率向上に向け、26-28年度で約200億円を投資予定




注記：　（1） 26-28年度における成長投資の投資効果イメージを示すものであり、各事業全体の資本効率を示すものではない

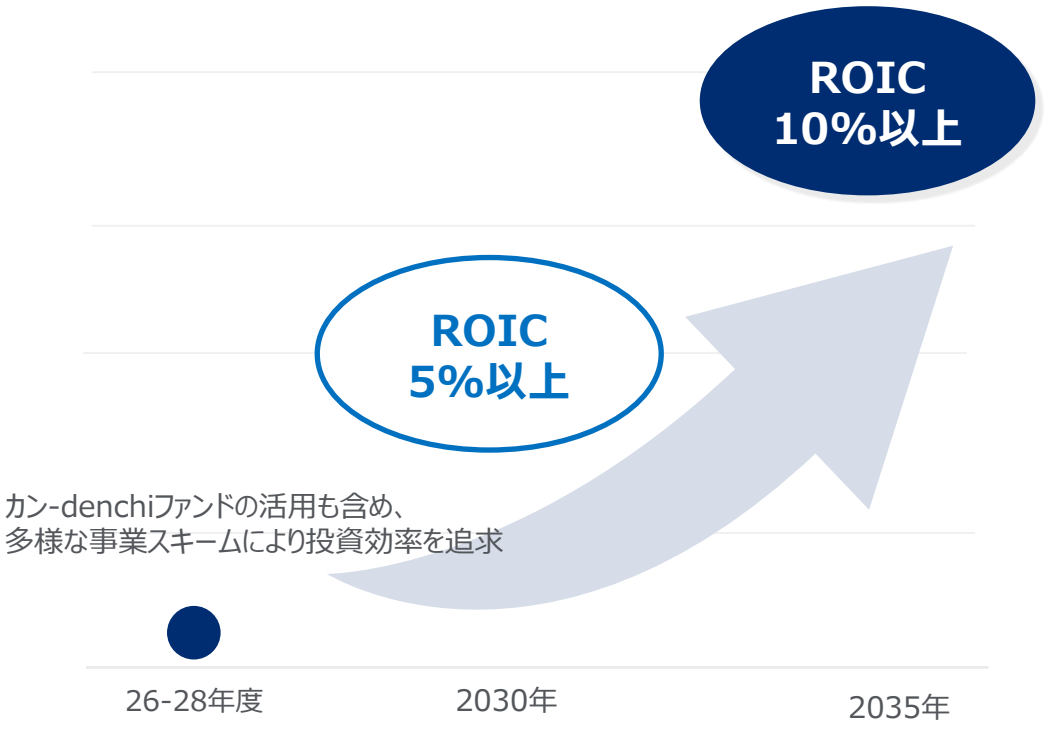
※ 「関西電力グループ 経営計画2026(2026/4/30)」

# 今後の方向性

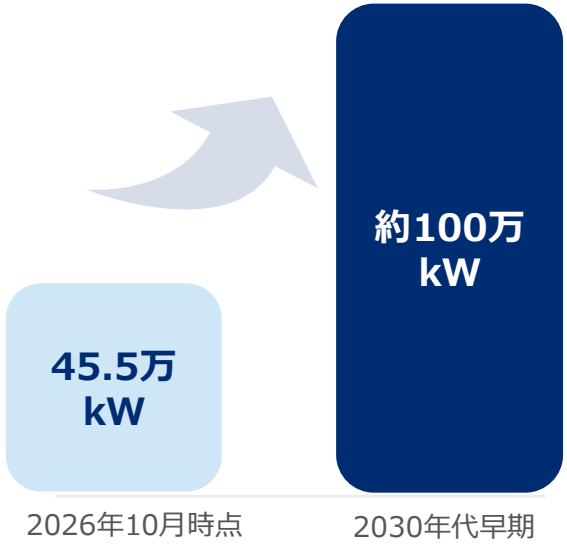


- ○ 蓄電所事業を安定的に高収益を生み出す事業へと成長させ、グループ全体の収益性のさらなる向上に貢献
- ○ 全国で精力的に事業展開を進め、蓄電所事業の国内トップランナーを目指す

## ROICの向上




## 案件・開発規模の拡大




※ 計画を含めた開発規模：45.5万kW（26年10月5日時点）

関西電力

power with heart

本資料には、将来の業績および計画に関する記述が含まれております。こうした記述は将来の業績および計画を保証するものではなく、リスクと不確実性を内包するものです。将来の業績および計画は、経営環境に関する前提条件の変化などに伴い変化することにご留意ください